

様式第 1 (第 15 条関係)

会 議 録

| | |
|---------------------------|--|
| 会議の名称 | 令和 3 年度第 3 回和泉市障がい者地域自立支援協議会 |
| 開催日時 | 令和 4 年 3 月 22 日 (火) 13 時 30 分から 15 時 30 分まで |
| 開催場所 | 和泉市コミュニティセンター 1 階中集会室 |
| 出席者 | <ul style="list-style-type: none"> ・和泉市障がい者地域自立支援協議会委員 大谷委員、清水委員、小尾委員、明石委員、宮崎委員、阪本委員、繁治委員、奥野委員、森委員、今村委員、山本委員、木下委員、南(朋)委員 ・事務局 黒川(障がい福祉課長)、原(障がい福祉課課長補佐) 宮本(障がい福祉課障がい者支援係係長)、前田(障がい福祉課) 沖田(基幹相談支援センター センター長) 階元(基幹相談支援センター 課長補佐) 金崎(基幹相談支援センター 係長) 興梠(基幹相談支援センター) 藤原(子育て支援室こども政策担当総括主幹) 伊勢(子育て支援室こども政策担当主査) 上野(子育て支援室こども政策担当) |
| 会議の議題 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和 3 年度における各部会等の進捗と今後の方向性について 2. 委員提案に関する協議について 3. 子ども部会(案)について |
| 会議の要旨 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年度における各部会等の進捗と方向性について報告を行った。 ・委員提案に関する協議を行った。 ・子ども部会(案)について報告と意見聴取を行った。 |
| 会議録の作成方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 |
| 記録内容の確認方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他() |
| その他の必要事項(会議の公開・非公開、傍聴人数等) | 会議：公開 傍聴者なし |

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

開会

委員紹介及び事務局職員紹介

議長挨拶

【議長】

議題1、令和3年度における各部会等の進捗状況と今後の方向性について事務局の方からご報告をお願いします。

【事務局】

令和3年度における各部会等の進捗状況と今後の方向性について報告

【議長】

只今の報告について、委員からの質問・意見を求める。

【委員】

資料1-5において地域移行部会の新メンバーの追加として医療機関が挙げられているが、医療機関の代表は精神科クリニック1箇所を考えているのか。

【事務局】

想定しているのは新生会病院。和泉市には精神科病院が4箇所あり、3箇所は既に参画いただいているため、アルコール依存症を専門とする新生会病院に来年度から参画いただくと考えている。

【委員】

町のクリニックは想定していないのか。

【事務局】

想定していない。

【委員】

ハローワークの利用者は、主に町医者やクリニックへの通院をしており、かつ、在職中でない方が中心。ハローワークでは求職者の開拓、就労支援として、泉大津市、高石市、忠岡町を含めた3市1町のクリニックの個別訪問を考えているが、クリニックでなおかつデイケアをしている、精神保健福祉士がいるところをイメージしていた。今後町のクリニックの参画も検討いただきたい。

【議長】

その点については、就労支援の取り組みとして検討をお願いします。在宅の精神障がい者は自殺者の増加等危機的な状況があり、在宅支援も重要な検討課題である。

【委員】

資料1-4②において、和泉支援学校との連携の構築とあるが、信太高等学校がすなが

わ高等支援学校の生徒を共生推進として受入れているため、可能であれば和泉支援学校と同時に連携を図っていったら。また、和泉市には聴覚障がいの方向けの学校はないが、堺市にはある。和泉市在住の通学生も多いと思うので、つながりを持つことを今後の検討課題としていただきたい。

【議長】

議題2、委員提案に関する協議について事務局の方からご報告をお願いします。

【事務局】

委員提案に係る協議について、事務局、提案委員より報告

【議長】

只今の報告について、委員からの質問・意見を求める。

【委員】

就労支援事業所から見て、和泉市において泉州北障害者就業・生活支援センター（以下就ポツ）がどういう役割をされているかが見えにくい。

【議長】

就ポツの役割を共有化する必要がある。

【委員】

障がい者雇用を推進するにあたり、大阪府では国と府が中心となり18箇所ですポツの事業実施をしている。泉州北障害者就業・生活支援センターは現在約34万人の人口規模の圏域であり、令和3年12月時点で登録者が702人。内訳は身体障がい者45名、知的障がい者391名、精神手帳所持者262名、その他4名。基本的には相談支援、働きたい障がい者を社会資源に繋ぎ、就職や自立を支援する。カウンセリング等ではなく、地域の機関に繋ぐことがセンターの役割。近年は障がい福祉サービスではなく、職場体験実習や腕試しを希望する方が中心になってきている。いきなり就職が難しい方は日中活動や就職活動のサポートのために地域の就労支援事業所に繋ぎ連携している。

【事務局】

就労系サービス事業所、就ポツ、和泉市無料職業紹介センター、ハローワーク等、就労支援の機関や事業所が多数存在する中で、ターゲット層の違いが整理できてない。今後、それぞれの果たす役割や強みを見える化することで就労支援の在り方検討を進められる。

【委員】

各機関の強みを活かして連携できればいいと思う。就労移行事業所は障がい者の就職と就労定着の支援が本来の仕事であるが、各機関との連携をしていく中で動きがちぐはぐな感じがしているというのが率直な感想。業務が重複しているため、ターゲット層の整理や、福祉サービス以外のニーズのフォローについても、役割と連携、強みを整理して進めていったらと思う。

【議長】

ターゲット層の整理は可能なのか。

【委員】

就ポツでは障がい福祉サービスのニーズのない人が主流になる。手帳を取得していなかったり、発達障がいの方。大学との連携が重点になってくるのでは。

【議長】

和泉市の無料職業紹介センター等とも連携できれば。

【委員】

市役所では障がい者雇用やインターンシップなど、社会資源の開発は就ポツの役割であると思う。

【委員】

地域課題によって違うと思うが、就ポツも個別ワークというよりは地域課題を解決していく立ち位置としてニーズが増えているので、市の障がい者雇用の今後の在り方検討に関わる部分があると思う。就ポツは労働局から地域資源の底上げを求められている。地域の就労移行事業所との連携の中で、スーパーバイズ的な立ち位置として、和泉市の企業で障がい者雇用をしているところがあるのか、実習ができるのか等、企業開拓に向けた助言という形でサポートできると思う。

【議長】

地域の支援からもれる人を発見する仕組みが大事。例えば不登校の児童の中には発達障がいなどの問題を抱える子がいる。市立の小中学校では対応がされているが、支援学校や府立、通信制の学校となると、適切に接近が図れないまま放置されるケースもある。また、就労の際は、アセスメントを行い適切な機関や就労に繋ぐ仕組みが必要だが、不登校や人間関係がうまくいかない方はそれが難しい。無料職業紹介センターにおいて、相談員がアセスメントを適切に行い企業とマッチングができればそれで良いが。医療的ケアが必要な方の就労支援もまた別の枠組みで考えていく必要がある。

【委員】

企業情報や実習先の情報は就ポツから提供いただくものもあるが、更なる希望としては、事業所発信の困りごとへの対応というのではなく、就ポツから積極的に実習先企業の開拓や企業の社会資源の情報発信をお願いしたい。今後、就労移行部会で取り組みを進めると思うが、無料職業紹介センターや就労移行支援事業所との連携など、議題が挙げたことはいいチャンスだと思うので、各機関ができることを明確化していくと和泉市の就労支援がいい方向に向くと思う。

【事務局】

今後、就労支援部会を進めていくが、継続的にターゲット層や強み、課題を整理しつつ今後の展開を検討していく。また、支援学校や高等学校、大学との連携についても進路相談の窓口で対応困難なケースのフォローアップを見据えて話をする必要がある。計画相談支援の役割も非常に大きいと思う。

【議長】

有料職業紹介所は連携可能か？

【委員】

現状では難しい。

【委員】

ハローワークにおいて、施設ごとに担当者をつけて対応をしてほしい。

【議長】

今後の検討になると思う。重度重症の人たちの就労をどう支えるかも考えていきたい。

【委員】

医療的ケアが必要な子たち自身で意思決定をして18歳以降の進路を決められる、働く上での支援体制が整った街づくりを目指して就労支援部会で意見交換をしていただけたらと思う。

【委員】

重度障がい者の就労として、生活介護における生産活動の実態把握はどの程度されているのか。社会資源マップをつかって各事業所の紹介をする取組みも大事だと思う。

【議長】

様々な形がある。生活介護事業所等でサポートする方法もあれば、最低賃金を確保した仕事の開拓もあり得ると思う。

【委員】

いわゆる雇用率ビジネスについてはどう問題意識をお持ちか。

【委員】

和泉市を中心とした圏域に関しては障がい者雇用ビジネスに関する話は出てきていない。障がい者雇用の求人内容や条件を見ながらハローワークと連携して実態把握をしていきたい。

【議長】

議題3、子ども部会（案）について事務局の方からご報告をお願いします。

【事務局】

子ども部会（案）について報告

【議長】

只今の報告について、委員からの質問・意見を求める。

【委員】

事務局はどこが担うのか。

【事務局】

子育て支援室と考えている。

【委員】

部会のメンバー構成は？

【事務局】

これから検討していく。

【委員】

家族の離職防止について、地域での生活の在り方を考える際には民生委員、地域の力も大事。ある地域の事例では、医療的ケアの必要な方を支えるためには専門的な知識が必要だが、地域の人でも30分ほどであれば見守りや送迎バスへの繋ぎができるなど、地域の社会資源の開発もされている。子ども部会のメンバー構成を検討する上では、障がい児相談支援事業所など児童支援の現場の方にも参画いただければと思う。また、事業所報酬の加算の実態調査も児童の状況把握に役立つと思う。

【委員】

児童発達支援ネットワーク会議での一番の課題は何なのか。また、自立支援協議会に子ども部会として参画することでどのような課題解決に向かうのか。

【事務局】

児童発達支援ネットワーク会議では未就学のこどもの療育支援に関することが中心である。しかし、就学以降の支援体制については全く協議がなされていない状況であり課題である。こどもに関する部署だけでの協議では課題解決が難しく、18歳以降まで見据えた支援の在り方を子ども部会で検討できればと考えている。

【委員】

障がい児から障がい者へ移行する際の連携が課題になっているということか。

【事務局】

そう認識している。

【委員】

基本的に課題ベースで部会を作る流れが自然であると思うが、資料ではどのような課題があって子ども部会を作ろうとしているのかが見えにくいのももう少し説明してほしい。

【委員】

子ども部会の立ち上げは嬉しい。今後、課題もたくさん出るだろうが、課題を先読みして解決策を考えていけるようになってほしい。例えば不登校の生活実態は把握しづらく、就ポツも、発達障がいや不登校についての情報は不足していると思う。また、医療的ケアが必要な方については医療機関で把握ができるが、医療的ケアを必要としない重度障がいの方もおり、その方たちはコロナ禍で日中活動に行けず、家族支援により就労が難しくなるケースもある。障がい児から障がい者への以降も見据えて切れ目ない支援体制

の構築をすることを目標にまず障がい児からというイメージで取り組んでほしい。

【議長】

課題から入るのも良いが、障がい者の支援を考えている立場から、子ども部会においてどういった取り組みがあればいいかをご意見いただき取り組みに反映していくことも必要である。こども部会を委員の皆様が育てていってくれたらというのが事務局の意図であると思う。

【委員】

課題はたくさんあるが、今回のこども部会に関して、制度からもれ落ちる人を発見する仕組みの重要性を感じた。こどもから大人、障がいから高齢への繋ぎも地域包括ケアの時代になると、先を見据えて支援体制を構築していくことが重要になってくると学ばせていただいた。

【議長】

就労について、就労継続支援 B 型にも多様な参加の仕組みができています。固定概念に囚われず、新たな職域の開発も含めて様々なバリエーションの創出をしていけるような就労部会であってほしいと思う。

【委員】

コロナ蔓延で外出を控えると退院促進が難しい。外部からの接触ができず課題抽出も難しい。コロナ収束後も以前の生活に元通りというものでもないだろうから、その中でどう工夫をするか。退院以外にも、新しい生活様式における課題検討も進めていかなければいけないと思う。

【委員】

民生委員が地域から情報収集をしていくことが重要。コロナ蔓延により訪問ができない中で、高齢者の見守り中心の活動にはなっているが、障がい者や児童に関することへの関心も高まっている。少しずつ地域の課題を拾い上げられるようにと思う。

【委員】

広報に載せるなど、民生委員の周知をもっとしてほしい。

【事務局】

以上をもちまして、令和3年度 第3回和泉市障がい者地域自立支援協議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。